

## 1. 主な参加団体及び出演者の紹介

### ■ アブル・ベカ民族舞踊団 ASOCIACION CULTURAL FOLKLORICA “ABUL-BEKA” (5月「飾ろう!花の祭山車 LET'S DECORATE A FLOWER FLOAT!」に出演)

1950年に創立、スペインを代表し世界的に活躍する舞踊団。失われつつあったスペイン各地の民族舞踊の伝統を取り戻し継承することを目的として常に努力を重ねている。1968年からは国境を越え、フランスやモロッコ、スイス、イタリア、ユーゴ、ドイツ、ポルトガル、チリ、日本、エジプト、チェコ、ポーランドやイラクでも公演を行う。1981年には舞踊学校をも設立し、現在では700人以上の生徒数を誇る。

フラメンコのほか、クラシコ・エサパニョールや各地民族舞踊をも学べる数少ない研究所であり、スペイン各地でコンクールやフェスティバル、デモンストレーションを開催し、近年ではスペイン国内フェスティバルには必ず参加、特にペドロ・ロメロ祭では国際民族舞踊ガラ・コンサートを毎年開催しスペイン国内の由緒ある民族舞踊のコンサートとして話題を集めた。

数多くの賞を受賞し、特に“金のアマポーラ賞”の受賞は特筆すべきものである。このイベントで「セビリアの春祭り」を再現する。



「アブル・ベカ民族舞踊団」  
写真提供: (株)ソル・デ・エスパーニャ

### ■ ハラウ・フラ・ナ・レイ・オ・カホロク (ハワイ)

(5月「飾ろう!花の祭山車 LET'S DECORATE A FLOWER FLOAT!」に出演)

ハワイ島コハラ出身の、ハワイアン・ミュージックとフラの世界で数々の実績を持つ音楽一家、リム・ファミリーの長女レイアロハ・リム・アミナと次女ナニ・リム・ヤップの姉妹のクムフラ(フラのマスター)。1990年、2人が中心となって、ハラウ・フラ・ナ・レイ・オ・カホロク(フラの学校)を創立。

現在では、ハワイのみならず、日本やタヒチでもワークショップを開催し、フラの素晴らしさを広めるために各地を飛び回っている。

2004年、メリーモナーク・フェスティバルに出場し、4年連続優勝していた Halau O Kamuela に続いて、大会総合優勝の栄冠を手にした。

### ■ 奥三河の花祭り (愛知県東栄町)

(5月「飾ろう!花の祭山車 LET'S DECORATE A FLOWER FLOAT!」に出演)

「花祭」とは、旧暦・霜月に行われる伝統行事として、毎年11月から3月にかけて愛知県北設楽郡東栄町、豊根村、津具村の3町村におよそ700年前から伝えられている。修験道の影響があるといわれる「湯立神楽」で、無病息災や豊作を祈願し、新しい清らかな魂を再生する。祭りの場は、「まいど(舞処、舞戸)」といい、中央に湯釜が据えられ、この「まいど」を中心に五色の鮮やかな湯蓋、添花などの飾りや、「ざ

ぜち」という様々なデザインの切り絵が飾られる。神事的な行事を進める「花太夫」を中心に、稚児の舞や鬼の舞など一晩中かけて舞われる。

#### ■美濃花みこし連(岐阜県美濃市)

(5月「飾ろう!花の祭山車 LET'S DECORATE A FLOWER FLOAT!」に出演)

花みこしの始まりは、雨乞いを起源として江戸時代に遡る。1766年頃に雨乞いから待ち騒ぎとなり造物を作って担ぎ騒ぎ、その後次第に他の祭りにも担ぎ出されるようになった。1853年頃現在の花みこしに良く似た形となり以降、今日まで続いている。

花みこし連は、美濃の先達の心意気とたゆまぬ努力の積み重ねられた文化を現代に受け継ぐために発足され、資料の収集や情報交換を通して、伝統文化の維持、保存並びに振興発展に協力し、国内外にもアピールをしている。

#### ■ウニドス・ド・ウルバナ(愛知県名古屋市)

(6月「踊ろう!世界のリズム」LET'S DANCE TO THE RHYTHM OF THE WORLD!に出演)

名古屋を拠点として活動するサンバチーム。1981年、日本屈指のサンビスタとして活躍するゲーリー杉田を核に、「名古屋バモスサンバチーム」として結成され、84年に現在の名称となった。

現在100人以上ものメンバーが参加し、浅草サンバカーニバルをはじめとする全国各地のフェスティバルや、国際交流イベントなど、様々な催事に参加。名古屋・栄のブラジルライブレストラン「NOVA URBANA」を拠点に、歌う・踊る・演奏するの3拍子がそろったサンビスタを目指し、日々楽しく練習に励んでいる。

#### ■越智ブラザーズ(日本)

(6月「踊ろう!世界のリズム」LET'S DANCE TO THE RHYTHM OF THE WORLD!に出演)

1980年代より数年にわたり世界の各地でフィールドワークを行い、様々なリズムを体験する。83年から民俗楽器、自然素材、美術的オブジェを駆使し、人と地球を結びイメージを音楽で表現させる試みを続けている。84年から90年までの三宅一生コレクションの作曲とパフォーマンスにより世界的に注目を集める。90年にCD「NATURAL SONIC」をリリース、同名の舞台作品も発表。93年 La MaMa 劇場(Annex / New York)で招待作品「VISUAL SONIC」を発表。96年にCD「AQUA」、「NATURAL SONIC 2」をリリース、97年、35th Anniversary Season LaMaMa 劇場(Annex / New York)において、招待作品「NATURAL SONIC」を発表。98年、韓国 Jooksan International Arts Festivalに招待され海外においても高く評価されている。

TV、ラジオ、CD-ROMなどの音楽制作、空間のための環境音楽制作、音楽プロデューサー、子供から大人まで楽しめる音とリズムのワークショップの展開など、幅広いジャンルで活躍している。

#### ■アンサンブル・エネサイ(トウバ共和国/ロシア)

(7月「歌おう!地球の歌 LET'S SING TO THE EARTH'S SONG!」に出演)

トウバ国立アンサンブルのベテランメンバーたちが、自らのアイデンティティを追及する為に独自に結成したアンサンブル。国立アンサンブルの首席歌手として世界を股にかけて活躍しているクーラル・ナデージダをはじめ、それぞれトウバでは人気のある芸術家たちが結集し、さまざまなホームイのスタイルを駆使した曲、ホームと呼ばれる口琴や三味線のようなドシュプルールなどの伝統楽器をじっくり聴かせる曲、旅の歌から子守歌、トウバ民族舞踊、ラマ教の宗教舞踊までヴァラエ

ティーに富んだレポートリーでトゥバの民族文化を総括的に紹介する。



「アンサンブル・エネサイ」

写真提供：巻上文子

#### ■横川裕子（民謡）

（7月「歌おう！地球の歌 LET'S SING TO THE EARTH'S SONG!」に出演）

15歳で「秋田船方節全国大会」史上最年少で優勝し内閣総理大臣賞を受賞。その後も「本荘追分」（16歳）「秋田追分」（17歳）「秋田港の唄」「秋田おぼこ」（18歳）各全国大会で最優秀賞し最年少で5冠達成。15歳で日本クラウンよりレコードデビュー。日本民謡界の未来を担う歌手。

#### ■松田惺山（尺八）

（7月「歌おう！地球の歌 LET'S SING TO THE EARTH'S SONG!」に出演）

竹の楽器による「バンブーオーケストラ」代表。和太鼓集団「鬼太鼓座」代表。03年スコットランドの打楽器奏者、エヴェリン・グレニーとの共演はドキュメンタリー映画「HEART BEAT」に収録され欧米で公開。98年アルバム「SEIZAN」をリリースし尺八の可能性を探求している。

#### ■スダマニ Cudamani（インドネシア）

（8月「祝おう！いのち讃えて LET'S CELEBRATE LIFE!」に出演）

スダマニはバリの村をベースとした活動を行なっているガムラン・オーケストラ&ダンス・カンパニー。1997年にバリのプゴセカン村で創設され、以来、伝統の保護と新しい作品の発展に寄与してきた。伝統に対する真摯な姿勢に加え、バリでトップを争う技術と音楽性、そして統制されたリーダーシップを備えたスダマニは、バリ芸能の次の時代を担う若手の音楽家集団として数多くあるこの種のカンパニーの中では、主導的な位置を占めている。

創作・演奏活動のほか、伝統文化の維持を目的に、プゴセカン村の若者を対象とした無料のガムラン及び舞踊クラスを実施している。国際的にも活躍しており、アメリカ（2002年）、ギリシア（2003年）、イタリア（2002年）へもツアーを行った。

芸術監督：デワ・プトゥ・ブラタ、デワ・クトゥット・アリット。



「スダマニ」

Copyright : Jorge Vismara

#### ■琉球國祭り太鼓（沖縄県）

（8月「祝おう！いのち讃えて LET'S CELEBRATE LIFE!」に出演）

沖縄のエイサーをベースに、空手の型を取り入れた独自の振り付けとダイナミックなバチさばきで、今や沖縄を代表し世界的に人気を誇る太鼓集団。昭和57年に沖縄

市泡瀬の若者達を中心に結成されて以来、沖縄が大切にしてきた「迎恩」の心を打ち響かせてきた。

現在、沖縄県内の 11 支部の他、県外 13 支部、更には海外 7 支部に、総勢約 1500 名の会員をもち、世界規模に広がりを見せている。活動も沖縄県内に留まらず、東京・国立劇場やニューヨーク・カーネギーホールといった大舞台や、ヨーロッパ、オーストラリア、シンガポール、インドネシア、中国、台湾等でも遠征公演を展開。98 年 2 月には「長野オリンピック文化芸術祭」に、また同年 8 月にはアルゼンチンにて開催された「沖縄県人南米移住 90 周年記念祭」にも参加するなど、沖縄の文化を世界に紹介するため、会員一同新たな感動の創出に取り組んでいる。

### ■西予の牛鬼(愛媛県西予市)

(8 月「祝おう!いのち讃えて LET'S CELEBRATE LIFE!」に出演)

愛媛県南予地方に継承される牛鬼は、東北地方から伝播したといわれる鹿踊とともに南予地方を代表する祭りとして知られている。

牛鬼とは、およそ 4~5 メートル、幅 3 メートルの巨大な胴をもつ角をはやした恐ろしげな鬼で、全身をしゅろの毛で覆い、あるいは赤や青の布で覆ってその中に数十人の男たちが入り練り歩く。起源は加藤清正がこれを作って敵を制したのが最初とか、時の領主・戸田勝隆の家臣である大洲太郎が猛獣の襲来を防ぐために祭りを起こしたとか言われるが定説がない。

宇和島市の和霊神社の大祭をはじめ、宇和島市と隣接する西予市などの南予地方一帯の集落でこの牛鬼は祭りの主役となっている。

## 2. シンボルロゴと開催イメージ

